45-1　日光街道千住宿を行く　（距離約 7km）

【街歩きの概要】

江戸四宿と呼ばれる地のひとつ千住宿は、江戸末期には人口１万人規模の最大宿であったという。その、日光街道の千住宿を南から北へとたどる。

松尾芭蕉「奥の細道」矢立て初めの地

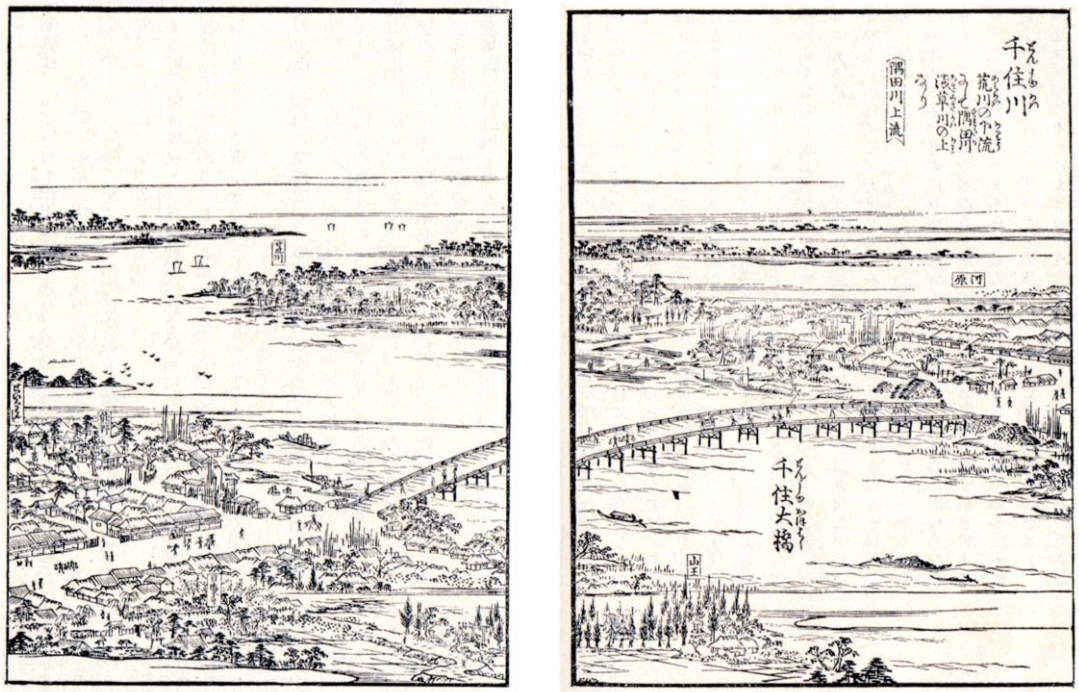
【地図豆知識　千住宿】

千住が、本格的な宿場となったのは寛永 2 年（1625）に日光道中の初駅となってからで、当初は南から北に延びる 1 丁目から 5 丁目の千住町内のみであった。万治元年（1661）には千住大橋を越えて荒川右岸の小塚原町・中村町を加えて合計 8 町から構成される（千住 1～5 丁目、掃部宿、小塚原町、中村町）こととなり、千住八ヶ町とよばれるようになったという。

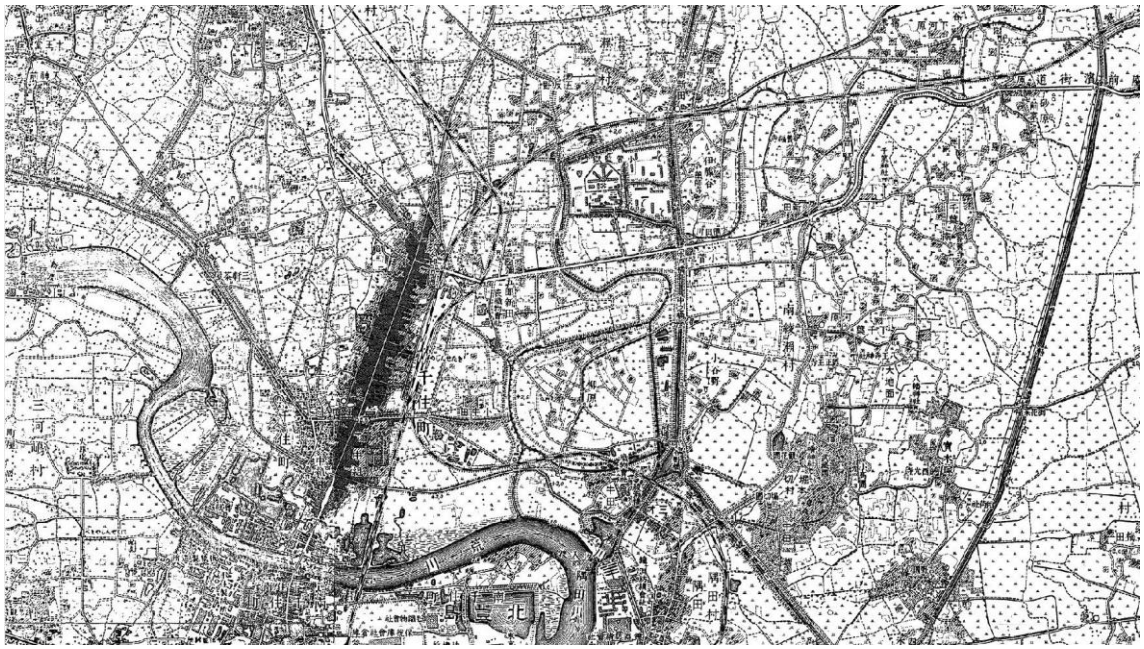
「千住」の地名については、本陣跡付近の勝専寺の寺伝に千手観音に由来するとあるというが、他にも平安時代のころから「千寿村」といわれた足利将軍義政の愛妾千寿の出生地であったなどが由来として伝えられている。

「江戸切絵図」の千住大橋のあたり

小塚原刑場のあった小塚原町や誓願寺、圓通寺の文字が見える。



「江戸名所絵図」の千住大橋



1/20,000 地形図「千住」　明治 42 年

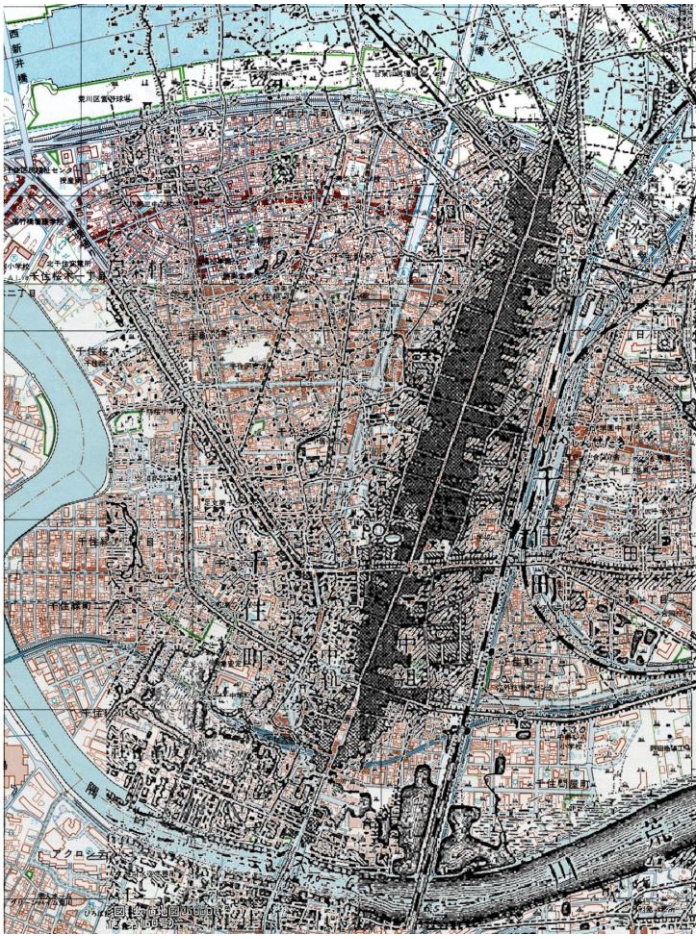
常磐線や東武鉄道線などが開通しているが、道路網はほぼ旧来のままである。蛇行した荒川（隅田川）の周辺は低湿地が広がり、千住宿の賑わいを除いて、辺りには田園風景が広がるようすが見える。

1/25,000 地形図「草加」大正 6 年　「東京首部」大正 8 年

明治 43 年の洪水被害を契機とした荒川（放水路）の工事が開始され、それに伴い住宅などの移転が進行している。そして、道路や鉄道、水路などの大規模な経路変更が必要になっているようすが読み取れる。

1/25,000 地形図「草加」昭和 4 年　「東京首部」昭和 5 年

あたりの道路や鉄道、水路など大規模な経路変更も決着がつき、大正 13 年(1924)の岩淵水門完成によって荒川（放水路）の建設が完了した。それでも、地図上の千住町と綾瀬町の行政界の一部が、荒川（放水路）建設以前の古綾瀬川の形を表現している。そして、（北）千住の町が、東西に発展を始めた。



現地形図に明治 42 年地形図を重ねる

新旧の地図を重ねると、旧来の千住宿がどのあたりにあったのかがよくわかる。そして、宿は南北に連なって発達した関係からか、街道を横切る道や裏道は狭い小路であって、それは今もそのまま残っている。

【道順】

JR 南千住駅→回向院→投げ込み寺浄閑寺→三ノ輪商店街入り口→円通寺（几号水準点）→素戔嗚神社（几号水準点）→橋本佐内旧套堂→千住大橋→松尾芭蕉奥の細道矢立て初めの碑→奥の細道プチテラス・足立市場→やっちゃ場跡→千住仲町商店街→千住宿歴史プチテラス→源長寺（子育て地蔵）→ミリオン通り方向へ→飴の石黒→高札場跡→貫目改所跡→森鴎外旧居跡→金蔵寺（遊女供養塔）→竹内商店・佃煮の鮒秋→宿場通り商店街・千住本陣跡→毛糸屋・中川園の蔵→本町公園→横山家→長円寺・めやみ地蔵→千住四氷川神社→日光街道・下妻海道追分→名倉医院→荒川土手→千住大川氷川神社（几号水準点）→絵馬屋・かどやの槍かけだんご→千住本氷川神社→JR 千住駅

【街歩き解説】

①回向院

この辺りにあった小塚原刑場での刑死者を弔うため、1667 年（寛文 7 年）に本所回向院の住職である弟誉義観（ていよ・ぎかん）が常行堂を創建した。これが、後に南千住回向院となった。境内には、明暦大火の供養塔、吉田松陰墓、鼠小僧の墓、高橋お伝の墓、そして解体新書の前野良沢、杉田玄白らがここで腑分けを見聞したことを記念する碑もある。

鼠小僧が長年捕まらなかった運にあやかろうと、墓石を削りお守りに持つ風習が当時より盛んである。

吉田松陰墓と鼠小僧墓

②投げ込み寺浄閑寺

浄閑寺が投げ込み寺と呼ばれるようになったのは安政の大地震（1855 年）で大量の遊女が死亡した際にこの寺に投げ込んで葬ったことによる。浄閑寺には、その吉原総霊塔や永井荷風文学碑もある。

吉原総霊塔

③三ノ輪商店街入り口

都電荒川線の始発駅「三ノ輪橋停留場」へと伸びる懐かしい雰囲気の商店街があるが、今回は通過する。

三ノ輪商店街へ

④円通寺（几号水準点）

公春院や真正寺などを経て、彰義隊ゆかりの寺として知られる円通寺へ。境内には「彰義隊士の墓」や無数に銃撃の跡が残る上野から移設した黒門がある。箱館政権の大鳥圭介追弔碑と並んで、のちに初代中央気象台長となる同海軍奉行荒井郁之助、同従軍医師高松凌雲の追弔碑も並ぶ。彰義隊の戦死者達は「賊軍」として扱われたため、戦死したあと遺体が放置されていたのだが、本寺僧が死を覚悟で供養したとか。

正門左手百観音石には、几号水準点が残る。

銃弾の跡が残る元上野の黒門・几号水準点（百観音石台石）

⑤素戔嗚神社（几号水準点）

定番の几号水準点が、素戔嗚神社鳥居下部に刻まれている。

素戔嗚神社（几号水準点）

⑥橋本佐内旧套堂（さやどう）

素戔嗚神社裏の荒川ふるさと文化館前にある橋本佐内旧套堂は、福井県生まれの幕末の志士橋本佐内の墓を納めるために作られたお堂を移設したもの。墓は回向院にある。その後、誓願寺を経て千住大橋へ。

⑦千住大橋と松尾芭蕉奥の細道矢立て初めの碑

千住大橋は、徳川家康が江戸に入府して間もない文禄 3 年（1594 年）に建築された隅田川最初の橋である。

そして、松尾芭蕉が「行く春や　鳥啼魚の　目は泪」と読んで旅立った地である。芭蕉一行が隅田川から右に舳先をかえ、思い出深い深川の地をあとにし、一行が上陸した千住大橋の北のたもと付近は、今、区立公園に整備され、園内に「奥の細道」の旅の行程図や、旅立ちの章段の抜粋を刻む「矢立初の碑」が見られる。石碑は、昭和 49 年(1974 年)に建てられたもので、碑陰に下の説明文が記されている。

橋の北にある中央卸売市場足立市場入口の奥の細道プチテラスには、芭蕉の立像もある。足立市場内には、一般者も利用できるよく知られた食堂がある。

中央卸売市場足立市場

⑧熊野権現と橋戸稲荷神社

千住大橋の架橋を行ったのは関東代官頭の伊奈忠次。熊野権現に祈願してようやく完成したといわれる。その小さな熊野権現が残る。

　対岸には伊豆長八のこて絵が残る橋戸稲荷神社がある。伊豆長八（入江長八）は、江戸時代末期から明治時代にかけて活躍した左官職人で工芸家。なまこ壁、鏝絵といった漆喰細工を得意とした。彼の生活拠点が江戸であったため、作品は東京地区に集中しており、現存する約 45 点は、東京都品川区高輪の泉岳寺、同区東品川の寄木神社、足立区の橋戸稲荷、千葉県の成田山新勝寺などに残っている。

⑨やっちゃ場跡と千住仲町商店街

　旧日光街道に面する千住河原町の両側は、ヤッチャヤッチャのせりの声が鳴り響き、大八車の往来でこみあったという、ヤッチャバ（青果市場）の跡であった。ここの「やっちゃ場」は戦国時代にはじまり、江戸期には農産物の集積場として繁栄し、荷車や船を使って越谷、草加、川越方面の農家からも出荷されたという。今は、問屋及び商店名を示す看板が戸口に並ぶ。

千住仲町商店街

⑩千住宿歴史プチテラス

　千住宿歴史プチテラスは、紙屋を営んでいた横山家より寄贈された土蔵を移設利用した千住宿を紹介するギャラリーと内庭。プチテラスから 7、8m 先の旧道の左側に「旧日光街道」「是より西へ大師道」の文字を刻む道標がある。

⑪源長寺（子育て地蔵）と飴の石黒

　子育て地蔵のある源長寺から旧日光街道を東へ跨いで、仲町氷川神社方向に出る小路を抜けて、ミリオン通り方向へ向かう。再び、旧街道へ出ると店構えも店内もレトロな手作り飴の石黒がある。

飴の石黒の店先

⑫高札場跡と貫目改所跡

千住小橋があったという千住消防署のある交差点近くに「千住宿　問屋場 貫目改所跡」の標柱がある。問屋場(といやば)は宿の事務担当機関として街道を往来する旅人のために駕籠や人馬の継立などを行ったところ。手前は高札場跡、その向こうは貫目改所跡であった。貫目改所は、物を伝馬で運ぶため重量を測り運賃を決める役所。委託者は大名や寺院、受託者は町人であったことで、委託者の申し出に不満があったという。

貫目改所跡（左）と高札場跡

⑬森鴎外旧居跡

森鴎外の父静男は、明治維新後上京し、明治 11 年に東京府から南足立郡の郡医を委嘱されて千住で医院を開業した。鴎外は、19 歳で東京大学医学部を卒業後、陸軍軍医副に任官され、明治 17 年のドイツ留学までの間、千住の家から陸軍病院に通っていた。

⑭金蔵寺（遊女供養塔・無縁塔）

千住宿には 55 軒の旅籠と 36 件の遊女屋があったといい、ここ金蔵寺には遊女の供養塔があり、台石の側面にぎっしりと戒名が刻まれている。「無縁塔」は、天保の飢饉の慰霊塔。

金蔵寺（無縁塔）

⑮竹内商店・佃煮の鮒秋

今では自販機が並ぶが竹内商店と、千住名物鮒のすずめ焼きを売る鮒秋は昔懐かしい木造建物。

⑯宿場通り商店街・千住宿本陣跡

北千住駅への交差点から先は、宿場通りとなる。千住二丁目交差点の少し先は千住本宿陣跡、近くに芸妓を取り仕切る見番もあった。今も残る小路の喰い違いが、町内の境を示している。

見番跡あたりの、町境を示す小路の小さな喰い違い

⑰毛糸屋、中川園の蔵、そして本町公園

宿場通りの中ほどには、雰囲気のある毛糸屋と、ごく狭い小路の先にお茶の中川園の土蔵が残る。小路や裏道をたどれば、昔懐かしい建築物に出あうことができる。

中川園の蔵・横山家

⑱横山家・絵馬屋

横山家は、江戸時代の紙問屋で、江戸後期建造昭和 11 年改築だといい、玄関の柱に残っている傷跡は官軍と戦った彰義隊が刀で斬りつけたものという説明があるが見つからない。裏手には白い土蔵が残る。道を挟んだ向こうには東京唯一だという絵馬屋もある。絵馬屋は、代々絵馬や行灯、凧を描いてきた際物問屋だとか。

⑲かどやの槍かけだんご

辺りにあった「槍掛けの松」から名付けられたという“槍かけだんご”。『みたらし団子』も『餡子団子』も東京一！だとか。

千住日ノ出町　清亮寺の「槍掛けの松」は、水戸藩主・徳川光圀公が、切るには惜しい名松なので、ここで休憩するときに槍を立てかけるのに利用したという話が残るが、もう跡形もない。

かどやの槍かけだんご

⑳長円寺、めやみ地蔵と千住四氷川神社

長円寺には霊験あらたかな？　めやみ地蔵がある。

(21)日光街道・下妻街道追分

千住宿は、日光街道(奥州街道・陸羽街道)、江戸と水戸を結ぶ水戸街道（陸前浜街道）、江戸と喜連川を結ぶ下妻街道の分岐点になっており、四丁目の北詰から右折し東に延びる道がかつての水戸街道である。五丁目の中ほどから左(西)に折れる道が旧日光街道道の延長で、下妻街道は、旧道を直進したが荒川放水路の開削で寸断されている。
「北西へ 旧日光道中」「北へ 旧下妻道」の追分には、立派な木造の旧家が建つ。

追分に立つ旧家

(22)名倉医院

江戸時代から骨接ぎといえば「名倉」、「名倉」といえば骨接ぎの代名詞ともなったほど有名な医院で、周辺には患者の宿泊施設なども並んだという。今も立派な蔵や建物が並び診療中である。門をくぐった先にある、正面玄関の構えが往時を思わせる。

名倉医院

(23)千住大川氷川神社（几号水準点）

荒川土手に近い千住本氷川神社には、移設された千住新橋標柱と江戸時代から盛んだったという紙漉きの碑が建つ。同碑の下部には、削り取ったような位置に几号水準点がある。

千住大川氷川神社（台石左上に几号水準点）・荒川土手から旧下妻街道

(24)千住本氷川神社から北千住駅へ

旧日光街道の西に並行する通りに、旧社殿の彫刻が見事な千住本氷川神社がある。追分から、ここまでの東西に延びる小路や裏道には、どこも下町らしい趣があるから、寄り道、よそ見をしながら歩くといい。

千住本氷川神社

+＊＊＊+　オフィス　地図豆　yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+

ルートマップ

千住新橋
西新井橋
荒川区営野球場
千住新機線地
台東区営運動場
区営運動場
千住大川町
千住仲町
千住元町
千住柳町
千住寿町
千住四丁目
千住三丁目
千住二丁目
千住一丁目
千住桜木一丁目
千住龍田町
千住中居町
千住旭町
千住宮元町
足立区
千住東一丁目
千住東二丁目
千住緑町二丁目
千住緑町三丁目
千住河原町
千住関屋町
千住南町
隅田川
南千住六丁目
南千住七丁目
南千住八丁目
南千住四丁目
南千住五丁目
南千住一丁目
南千住三丁目
日光街道
千住大橋駅
南千住駅
隅田川駅